

世界統一3月13日アクトデー記念 世界初の試み

アジア第一・第三ゾーン ローターアクト研修会 『感動と共に幕を閉じる』

1992年3月14日(土)、15日(日)2日間 松山市奥道後ホテル

第2670地区社会奉仕委員長

菊澤建明(伊予RC)

若葉香る春風と共に、日本31地区RA委員長、委員長ノミニー、RA地区代表、代表ノミニー及び役員、地区内ローターアクト・クラブ未提唱RC社会奉仕委員長、青少年奉仕委員長、第2670地区来賓並びにRA委員、計513名で奥道後ホテルを会場として開幕。

会場内は世界初の試みとあって、RI本部奉仕プログラム担当課長レベッカ・D・フリッツ女史、RIローターアクト委員伊藤茂氏(相模原中RC)、韓国パストガバナー方炫氏、インド地区代表と正に国際的な研修会様相を醸し出している。井内ガバナー、池田代表の挨拶に始まりオープニング・セレモニーは厳かにプログラムに従って進行し、休む時間も惜しんで直ちに各部門別分科会に入る。熱気漲る討論が各分科会場をゆるがす。

正にバス・セッションさながら1分を惜しんで討論、議論を進めて行く姿は、さすが各地区を代表する委員長、代表ならではと感じた。専門的知識、体験、すべてを網羅しながら理想とするローターアクト像を求める姿は、この研修会の目的そのものであった。

夜のプログラムのパーティタイムもアクト・メンバーはフォーマル・スタイルに一変し、華やかなものになった。

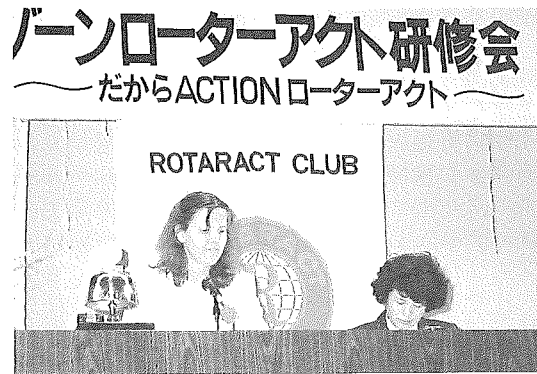
特筆すべきはアトラクションでプロの踊り手、阿波踊りが身ぶり手振りも軽やかに舞台上に現れ、踊りの渦が会場内を埋めつくす。

プロの踊り手とばかり思っていた人を近くで見ると、驚いたことに井内ガバナーであった。さすが徳島生まれの徳島育ち、踊りを身体で覚えているようだ。この研修会を盛り上げ、力づけるためのガバナーの温かい心入れを受けとめ、私も踊りの渦に入っていた。

アクト数十人、揃いのハッピー姿とガバナーの気の合った踊りは、今後地区での理想の姿を表現しているかのように見えた。



井内ガバナー挨拶



レベッカ女史と通訳の方

二日目は朝から雨。しかし会場は昨日に引き続き、更に昨日の議題を深く掘り下げての討議に入った。

各地区委員長の体験と研究、そのご苦勞は大変なものであり真剣そのものであり、ともに刺激を受け合い満足いくものであった。ただ願わくば、もっと十分な時間が欲しいと誰もが思った事であろう。

午後12時閉会式となり、井内ガバナーの講評、RA地区実行委員長・永井東洋君の閉会宣言。池田代表の点鐘により二日目の研修会の幕を閉じた。

今回誠に残念に思った事は、ローターアクト未提唱クラブの社会奉仕、青少年奉仕委員長、いずれかの方にご出席を願ひ、ローターアクトについて研究をして頂きたいとの願ひが26クラブからの参加通知をいただきながら、多くのキャンセルに出会った事は私の不徳のいたす所でした。しかし8名の出席者とパストガバナーを交えて熱心に研究して頂いた事は地区にとって、クラブにとって有益であったと思います。

今回、この研修会を開催するにあたり、RAC提唱クラブ様より多大のご支援、ご援助を賜りました事をアクトと共に深く深く感謝申し上げます。

そして研修会で初めて実現した梶浦、谷村、牟禮、松野パストガバナーのご出席は力強くアクトのためロータリークラブ会員全てに大変な刺激を与え、レベッカ・D・フリッツ女史、伊藤茂先生、方炫パストガバナーのご活躍は目を見張るものがあり、さすがと感心致しました。

皆様本当に有難うございました。



部門別に分かれて話し合い



プロ並みの井内ガバナーの阿波踊り

国際ロータリー部長

国際親善へ 相互協力を

愛媛新聞訪れ歓談



国際理解について語るレベッカさん
愛媛新聞社

十四、十五の両日、松山市で開催される「アジア第一・第三ゾーンローターアクト研修会」に出席するため、国際ロータリーの奉仕プログラム部長、レベッカ・フリッツさんが米國から

来松。十三日、友人のニル・ス・アンダース・エリクソンさんと共に愛媛新聞社を訪れ、同社の松下功会長らと、国際理解推進などについて歓談した。

レベッカさんは「世界平和のため、相互に協力しよう」と呼び掛ける。また、今一番の重要課題として「環境保全」を挙げ、同席の県内ロータリーメンバーらと意見交換。「日本は初めてだが、世界的に見ると日本のロータリークラブの貢献も素晴らしい」と話した。

(愛媛新聞 1992年3月14日付け)